



イベント  
フォトギャラリー

# わったー まちの話題

2月6日(月) 西原町民劇団立ち上げに向けて



西原町で町民劇団を立ち上げようと、県内外の舞台上で役者としても活躍する城間やよいさんと演出家の野底武光さんが崎原盛秀町長を訪問しました。

城間さんは「演劇は作り上げるまでの人との交流がとても楽しい。年齢を超えて多くの人が交流できればと思う」、野底さんは「演劇では達成感、高揚感が得られる。演劇に興味を持ってもらい、ステージに立ってほしい」と話していました。

劇団立ち上げに向け、裏方スタッフも含めて演劇に興味のある方を募集中です。詳しくはwebサイトまで。

2月1日(水) キャリア教育で町長が講話



西原南小学校6年生を対象に崎原盛秀町長がキャリア講話を行いました。崎原町長は、西原町の歴史や今後のまちづくりなどを説明したあと、うさぎとカメの話を題材に「目標を持って夢をあきらめてはいけない、努力が大切。周りへの感謝と同級生の絆も大切にしてください」とアドバイスしました。児童からは、「トイレ改修費の工事費はいくら?」、「町長になったときの1番の目標は?」、「西原町を5段階で評価すると?」など、大人顔負けの質問が飛び出し、崎原町長はその質問1つ1つに丁寧に答えていました。

前里葉月さんは「町長は堅い人かと思ったけど、いい人で町のことをよく考えてくれている。将来稼いだらたくさん税金を納めたい」と笑顔で話していました。



1月 Jリーグチームキャンプ!

今年もJリーグに所属する3つのチームが1月に西原町(陸上競技場、東崎公園)でキャンプを行いました。

J1リーグに所属するヴィッセル神戸と川崎フロンターレ、J2リーグに所属する大宮アルディージャがそれぞれ、開幕に向けてトレーニングに打ち込みました。

今季も選手の皆さんの活気あふれるプレーに注目しよう!

1月31日(火) 西原東中 人権活動で感謝状贈呈



第41回全国中学生人権作文コンテストにおいて人権意識の高揚に尽力した学校として、西原東中学校へ那覇人権擁護委員協議会より感謝状が贈られました。

人権作文に応募する生徒が年々増加しており、人権活動への積極的な取り組みが感謝状につながりました。

吉田敬校長は「生徒や先生の取り組みがこのような感謝状につながりとても嬉しいです」と笑顔で話しました。

1月26日(木) 全小中学校、トイレ洋式化が完了!



町内小中学校6校のトイレ洋式化の修繕工事が昨年末に終了し、そのお礼に各校長が崎原盛秀町長を訪ねました。西原東小学校の宮城卓司校長は「修繕していただきありがとうございます。子どもたちも喜んでます」と感謝を伝え、坂田小学校の松川邦昭校長は「体育館と校舎のトイレを修繕してもらいました。6年生から感謝の気持ちです」とお礼の色紙を手渡しました。

西原中学長の友寄ゆかり校長からは「洋式化に向け全校生徒で節電・節水に取り組み、2年がかりで節電節水キャラクター『るでちゃん』の製作も行いました」との報告もありました。

崎原町長は「子どもたちから感謝の手紙をもらって大変嬉しい。こんなにも喜んでもらえて良かった」と笑顔で話していました。

2月1日(水) 西原東中学校から 全日本代表選手に!



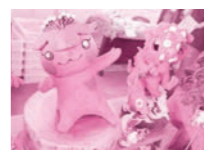
全国中学生バレーボール選抜選手に選ばれた西原東中学校の崎山陽生さんが崎原町長を訪れました。

崎山さんは全国から選ばれる12人の選抜メンバーの1人として、2月に行われるイタリアへの海外遠征に参加します。

崎山さんは父や兄の影響で小学1年生からバレーボールに打ち込み、現在の身長は191cmで、まだまだ成長期の途中とのことです。

崎山さんは「全日本でも自分のプレーができるように全力で頑張ります」と熱い意気込みを話しました。

1月29日(日) マルシェでやちむん市開催!



「東海岸やちむん市」(西原町観光まちづくり協会主催)が西原さわふじマルシェで開催されました。西原町、与那原町、中城村、北中城村から8工房が出店し、日用雑貨やシーサー、さわりのやちむんやサンゴを使ったやちむんなど個性あふれる作品が並び、訪れた人々を魅了しました。また、会場にはキッチンカーも出店し多くのお客さんで賑わいました。



## 『文教のまち西原』 四十年のあゆみ

本町は、戦後、さとうきび作を主体とした純農村として発展し、昭和四十年代から都市近郊という立地を背景に各種企業の進出や住宅団地等の開発がめだち、急速に都市化が進みました。

そして、昭和五十年前後にかけて私立三育小学校、沖縄県消防学校、県立西原高等学校の新設や国立琉球大学の移転に伴い「文化学園都市」としての様相を呈する中で、昭和五十四年には町制へ移行し、同年に町中央公民館、町社会福祉センターを整備して、社会教育の推進と社会福祉の向上に努めてきました。

町制施行に伴い昭和五十五年に実施した「新しいまちづくり」に関する意識調査では、「新しい西原町の将来像についてどのような姿が望ましいとおもいますか」との問いに対して「教育文化のかわり高い文教住宅の町(五一・六%)が過半数を占めました。



町制施行に伴い昭和五十五年に実施した「新しいまちづくり」に関する意識調査



こうした動向を受けて、昭和五十七年に「町総合計画基本構想」が議決され、西原町のめざす将来像は「文教のまち西原」と定められ、将来像実現に向けて行政運営がスタートしました。平成元年に、沖縄キリスト教短期大学の移転、平成十二年に沖縄県立埋蔵文化財センターが開所すると、本町も学校教育施設はもとより、生涯学習の受け皿として、町民体育館、町民陸上競技場、町立図書館等の社会体育・社会教育施設や小学校区単位の児童館、児童公園等の児童施設を整備し、環境を整えてきました。



このように、本町は「文教のまち西原」としてのまちづくりを進めてきた四十一年の歴史があり、今後引き続き、豊かな人間性と文化を創造するまちづくりをめざし歩んでいきます。

※この条例は、公募による町民、議員、職員、大学生が参加する「町民会議」でその内容が検討され、町民の思いが反映された条例です。

お問い合わせ 文化課 文化財係 ☎944-4998